

11月12日発表のインドネシアの政策金利の引き上げについて

政策金利を7.25%から7.50%に引き上げ

2013年11月12日、インドネシア中央銀行は市場予想に反して政策金利を0.25%引き上げ、年率7.50%とすることを決定しました。同時に、市中銀行が中央銀行に資金を預け入れる際の「預金ファシリティー金利」を0.25%引き上げて5.75%に、市中銀行が中央銀行から資金を借り入れる際の「貸出ファシリティー金利」も0.25%引き上げて、7.50%としました。今年6月以降の政策金利の引き上げ幅は計1.75%となります。

インフレ率と経常赤字の抑制を優先

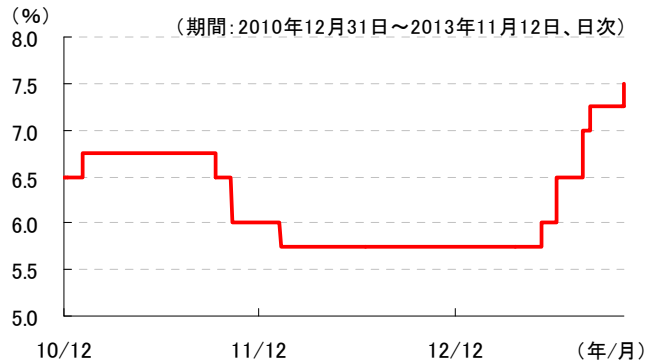
同中銀は声明で、今回の決定について「経常赤字の削減と、2014年のインフレ率を目標レンジの4.5±1%に回帰することを確実にするため」としています。4-6月期の経常収支は過去最悪の98億米ドルの赤字となりました。また、同中銀は7-9月期は84億米ドルの赤字になるとの見通しを公表しており、改善は限定的にとどまるとみています。一方、インフレ率については、2014年には目標レンジに落ち着くとみています。

今回の予想外の利上げ決定からは、通貨の安定を重視する同中銀の姿勢がうかがえます。

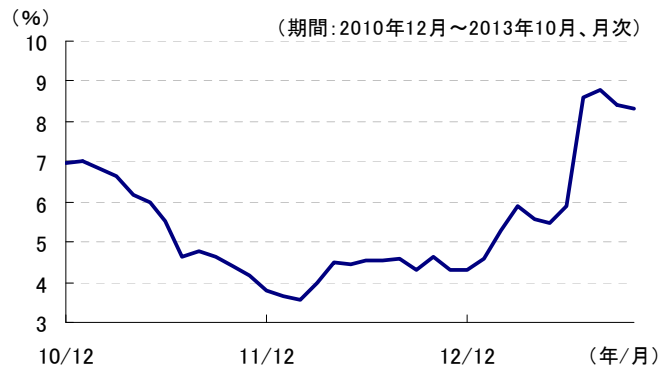
11月12日の外国為替市場(ニューヨーク時間17時頃)では、対米ドルで前日比0.5%程度のインドネシアルピア安、対円で同0.1%程度のインドネシアルピア高となっています。

次回の金融政策決定会合は2013年12月12日の予定です。

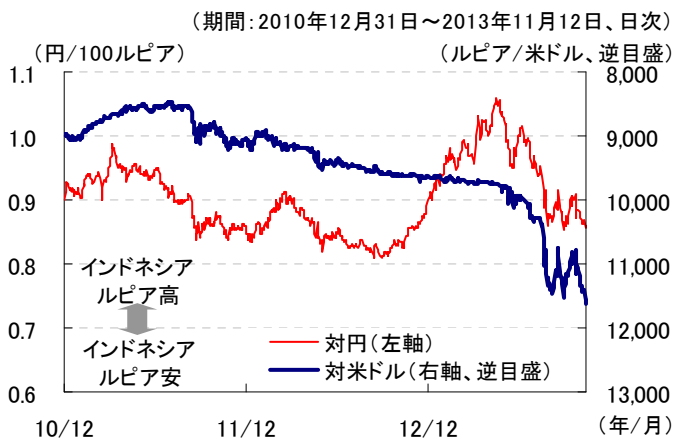
【図1】インドネシアの政策金利の推移



【図2】インドネシアの消費者物価指数(前年同月比)の推移



【図3】インドネシアルピアの対円・対米ドルレートの推移



(注)ニューヨーク時間17時頃の値

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

以上